2023年11月号
令和5年10月20日発行/No,371
発行所：待乳山 本龍院
〒111-0032 東京都台東区浅草7-4-1
☎ 03-3874-2030

いちょう

待乳山聖天

11月 行事予定

今夕のご縁日

11/20 月曜日 11:00~

御畳講

おたたみこう

【寺務所にて受付中】
講金 2000円

家内安全を祈る大般若法要を執行いたします。
皆様のご寄進で本堂の畳を毎年張り替えます。
法要後、例年は職人が畳表を境内で交換しますが、
今年は畳床の交換も行います。

11/12 日曜日 13:30~

【写経供養会（しゃきょうくようえ）】 信徒会館大広間にて開催

この一年で奉納された写経を供養します。
また巻数達成者には表彰式があります。

講金：2000円

月間行事

朝まいり会

11月1日~7日　午前8時~8時半
会費：500円也

毎日参加されなくても１週間のうちで、ご都合のよろしい日にご参加ください。継続されている方は表彰され記念品が授与されます。

【朝まいり会よりお知らせ】

８月より朝まいり会で七日間皆勤された方は
いちょうにお名前をお載せしております。

名前の掲載を希望されない方は本堂職員までお声かけください。

写経の会

11月12日（日）　午前10時・午後1時
会費：500円也　定員：午前午後共に80名ずつ

お経を一文字一文字丁寧に写すことにより仏様の功徳をいただけます。

合同大般若法要

11月25日（土）　午前11時
法要料：5000円也

諸願成就や日頃のご加護の御礼の法要として皆さんとご一緒にお上げする法要です。

要予約 坐禅の会

11月25日（土）　午前9時半~10時半
参加費：500円也

僧侶より説明を受けながら坐禅の修行を体験できます。
足の悪い方は椅子でのご参加もできます。
事前に寺務所にてご予約ください。

ライブ配信のご案内（配信QRコード）
御縁日法要・合同大般若法要のライブ配信を行っております。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。
ご意見やご質問は **ityou@matsuchiyama.jp** までメールをお送りください。

「開白と結願」

総務部長　杉本真海

当山で毎朝欠かさず厳修している浴油祈祷（よくゆきとう）ですが、厳密には毎月一日から一週間単位のサイクルで行われております。
この一週間のサイクルの始まりを「開白（かいびゃく）」と呼び、終わりを「結願（けちがん）」と呼びます。
開白のはじめには、香湯（こうとう）で聖天様を清め、御祈祷の開始を告げる特別な句を唱える作法を行い、浴油祈祷の終わりの日である結願にもやはり聖天様を香湯で清め、一週間の浴油でおかけした胡麻油を洗い落とします。そしてこの七日間に修した七座を総括する作法を行っております。
このように、浴油祈祷は 365 日漫然と続いているのではなく、一週間ごとの開白と結願という大切な区切りがあります。
御祈祷を申し込まれるご信徒の方に関しても、この開白と結願の日には直接の参拝をされたり、ご自宅でも特別丁寧なお参りをされるとよいのではないかと思います。
しかし、この開白と結願のその二日間だけが大切なわけではなく、御祈祷の一週間、人によっては長くも短くも感じられる七日間という期間を意識することも大事ではないかと私は思います。
例えば、御祈祷が始まってすぐに結果が出る場合もあると思います。そのような場合には、油断をして結願までの期間の御祈願がおろそかになってしまうこともあるかもしれません。しかし簡単に結果が現れる場合は、簡単に元に戻ってしまうこともあります。だからこそ、結願までの七日間は一層の注意と信心が必要になります。
また、時間を要するお願い事の場合、物事の変化を感じられなくとも、七日という期間中、一日として同じ日は無く、私たちの精神状態や環境は常に変動します。毎日を心新た聖天様にお縋りすることで、聖天様のお導きに気付くチャンスはより大きくなります。それが本当のご利益へとつながるでしょう。
浴油祈祷における「開白と結願」という区切りは、一週間というサイクルを基に信仰のリズムを整え、その中で一日一日を大切に生きることの重要性を教えてくれます。一週間という時間の流れの中で、開白から結願までの期間を意識的に過ごすことで、信仰はより深く有意義なものになるでしょう。それは、ただの時間の経過ではなく、心の成長と精神性の向上へと繋がるでしょう。

用語コラム

「月待法要（つきまちほうよう）」

今月29日にお月見の会が開催されその中で月待法要を行います。
この月待ちは日本の各地で古くから行われており特定の月齢の日に仲間が集まり、飲食をともにしながら月が出るのを待ち、お経などを唱えて月を拝んで夜を明かし、魔を払う行事です。
十三夜、十五夜、十七夜、十九夜、二十三夜、二十六夜などの特定の日に行われ、地域によって行う夜は様々で、その土地の独自の伝統が存在しています。これらの中でも特に二十三夜待が盛んだであったようで、筆者の自宅から200メートルほどのところにも写真のような二十三夜塔が建っております。

この塔は月待講（月待信仰の仲間たち）が記念として建てた石塔です。
月待塔に仏様が刻まれた石仏が建っていることもあります。十三夜なら虚空蔵菩薩（こくうぞうぼさつ）、十五夜なら大日如来（だいにちにょらい）、観世音菩薩（かんぜおんぼさつ）、十七夜なら如意輪観音（にょいりんかんのん）などが多いようです。
当山のお月見の会では夜通し月を拝みませんが、参加する皆様は月待講の一員であると言えます。
月待ちは、日本の文化や宗教の一部として、月の美しさや神秘性を称える素晴らしい行事であり、伝統を受け継ぐ重要な瞬間でもあります。このような行事は、その土地に深く根付いている大切な行事です。
月待法要を通じて月の美しさと神秘性に感謝しながら日本の豊かな文化を継承し、大切に育んでいくことでこの伝統も永遠に続くことを願っています。

「七五三受付中」 ご志納金：5,000円

当山では十月後半から十一月を中心に七五三参りをご予約にて承っております。
お参りは一家族ごとに本堂内陣で行者様から直々にお加持を授けられます。またお子様のお名前が入りましたお守りとお供物をお授け致します。
特に土日の法要はご希望の方が多い場合がございますので、お早めに寺務所にてお申し込みくだ

◀ ご報告 ▶

「開山会」

今年の開山会法要は好天に恵まれ、当山の故事にちなんだ特別な儀式として、本堂の周りのお加持をしながら一周するお練り行列を通じて龍神様をお招きし、その後本堂にて百味法要を執り行いました。お練り行列には、世話人様が香炉、灯明、献花、大根、お団、お神酒を手にして参加され、本堂を一周。その後、御宝前にお供えしました。
いつも以上に豪華なお供え物に聖天様もお喜びになり、講中申込者のご利益も大きなものになったことと思います。
法要の模様は、当山のホームページでのライブ配信にてご覧いただけますので、是非ご覧ください。

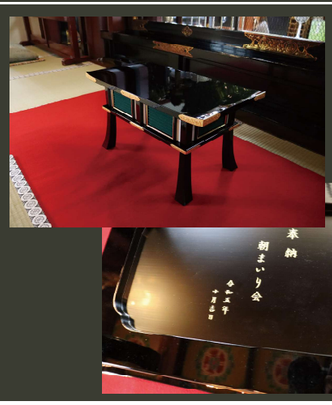
「二十八地蔵開眼法要」

境内整備事業として、待乳山に鎮座する地蔵尊を、地蔵経にある二十八種のご利益にちなんで二十八地蔵尊として改めてお祀りいたしました。
開眼法要は開山会の後に行われ、僧侶が地蔵経をお唱えする中、住職は二十八の地蔵尊を順番に一躰ずつお加持をいたしました。
整備が完了した地蔵尊は、以前にもまして広々とした空間でお参りいただけます。
お参りの際は、二十八地蔵を代表して地蔵堂の歓喜地蔵尊をお参りいただければ結構です。
巡拝される方は１番のお地蔵様から順にご参拝ください。

ご奉納

「飛竜の織・浮世絵」

晴雅堂清水様より、江戸時代に描かれた飛竜の織物と、待乳山に関連する作品を中心に計16枚の浮世絵をご奉納いただきました。
大変立派な龍の織物と、貴重な浮世絵をありがとうございました。

「朝まいり会経机」

朝まいり会で使用されている導師用の経机は、昭和43年に大川慎一様からご奉納いただき、50年以上大切に使い続けてまいりました。その間、何度も補修を重ねながらもついにその寿命を迎え、新調が必要となりました。
朝まいり会は70年以上もの間、会員の皆様と一緒に歩み続けてきたお参りの集いという事もあり、これからも長きにわたり共に朝まいり会を支えていくため、会員の皆様に経机の勧募をお願いいたしておりました。
会員の皆様のご支援により、立派な経机を購入することができ、10月1日の朝まいり会より早速使用を開始いたしました。
これからも朝まいり会は、新しい経机とともに、会員の皆様と歩みを進めてまいります。ありがとうございました。